

都市再生整備計画

ふじのみやえきしゅうへんちく
富士宮駅周辺地区(第5回変更)

静岡県 富士宮市

平成25年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	静岡県	市町村名	富士宮市	地区名	富士宮駅周辺地区	面積	276 ha
-------	-----	------	------	-----	----------	----	--------

計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標
【中心市街地に安全安心で回遊性のある歩行者空間を確保する】
 ・潤いのある歩行者空間の整備により、まちなか歩きの回遊性を向上させる
 ・JR身延線鉄道高架事業に合わせた面的な道路の新設整備を行う事により、鉄道により分断されていた南北地域コミュニティの再生と醸成に資するとともに回遊性のある歩行者空間を創出し、南北自動車交通の渋滞緩和を図る。
 ・阿幸地青見線(内環状道路)の整備により、中心市街地を通過する大型貨物車両を抑制・分散して、歩行者の安全性向上を図る。

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 富士宮市は、古くから多くの富士登山者が参拝する「富士山本宮浅間大社」の門前町として栄えてきた。浅間大社は、富士山頂を始めとして全国に1,300余ある浅間神社の総本宮であり、富士宮市の中心市街地を形成する中心軸となっている。
 富士宮駅から浅間大社までの歩行者動線については地区計画を導入し、歩道照明並びに建物等により近代的門前町をイメージした商店街を形成している。
 景観形成については、平成19年8月1日、富士宮市は景観行政団体となり、現在作成中の景観計画により更なる景観の向上に努めている。また、平成19年6月28日には、富士山が世界文化遺産の暫定リスト入りとなり、現在世界文化遺産登録を目指しているところである。
 ここ数年では、「富士宮やきそば学会」の活動により、「富士宮やきそば」によるまちおこしが盛んで「やきそばのまち富士宮」が全国に定着しつつあり、平成19年6月2日～3日に浅間大社で開催した、B級グルメの王座決定戦「第2回B-1グランプリin Fujinomiya」では25万人もの来場者を記録し、富士宮やきそばが見事2連覇を達成した。
 中心市街地活性化の起爆剤として期待されていた「富士山せせらぎ広場」が平成18年7月13日にオープンし、大型バスも収用可能な駐車場からは、日々多くの観光客がB級グルメの王者、富士宮やきそばを求めて「やきそばのまち」に歩いて行く。
 今後は、平成21年3月に開港を予定している富士山静岡空港、平成24年度完成予定の新東名高速道路により周辺の基盤が整備されていく為、更に多くの観光客が周遊できる観光都市として、早急な交通基盤整備を必要としている。

課題
 ①過去にまちづくり交付金で完成した富士山せせらぎ広場から中心市街地(浅間大社方面)への歩行動線が分断されているため、市民と観光客の安全な歩行空間の確保と回遊性に課題を残している。
 ②大規模商業施設が平成13年度にオープンして以来鉄道南北の交通が活性化し、周辺幹線道路の渋滞が慢性的に発生している。更には、大規模商業施設は増床工事に着工し、平成22年度のオープンを計画しているため、今後の更なる交通量の集中が予測されている。JR身延線鉄道高架事業により南北の自動車交通の円滑化と安全安心な歩行者空間の整備を計画しているが、南北交通とコミュニティの更なる円滑化が期待されている。
 ③(都)阿幸地青見線(内環状道路)は、大型貨物車両が大規模工場へアクセスするルートとして位置づけられているが、国道139号の交差点では大型車の進行方向が制限されているために大型貨物車は中心市街地へ流入し、安全性に課題を残している。また、同街路の未整備区間は歩道が設置されていないため、安全な歩行者空間が確保されていない。

将来ビジョン(中長期)
 快適でにぎわいとふれあいのあるまち(第4次富士宮市総合計画)
 平成の門前町は豊富な湧水と自然・都市景観に囲まれ、安全で快適な歩行者空間では散策する市民と観光客が融合し、まちなかににぎわいと人々のふれあいがある魅力的なまちづくりが形成される。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
渋滞長の緩和	m	駅周辺道路の渋滞長緩和	渋滞している主要道路の渋滞長緩和により市街地交通を円滑化させて、市街地歩行者の安全性を向上させる	1,945m	平成20年度	1,750m(1割減)	平成25年度
大型貨物車両の抑制	台/12h	中心市街地への大型貨物車の進入抑制	市街地へ流入する大型貨物車の交通量(台/12h)の台数を減少させる事により、市街地歩行者の安全を図る	412台/12h	平成20年度	50台/12h 減	平成25年度
バリアフリー事業の促進	%	バリアフリー重点整備地区内の歩道整備率(富士宮駅周辺地区交通バリアフリー基本構想重点整備地)	重点整備地区内の歩道整備率の向上により、安全安心で回遊性のある歩行者空間を創出する。	67.4%	平成20年度	72.4%(5%増)	平成25年度
地域コミュニティの推進	回/年	中心市街地での地域コミュニティの活発化	中心市街地での市民のサークル活動等を増加させ、地域コミュニティの活発化を図る。	1,418回/年	平成20年度	1,624回/年	平成25年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・まちづくり交付金により整備した富士山せせらぎ広場から浅間大社への歩行動線が未整備となっているため、県の一級河川神田川整備と合わせて潤いのある歩道を整備する事により、歩行空間の連続性と回遊性の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)神田川広場 ・高質空間形成施設 ・高次都市施設 ・地域創造支援事業 ・地域生活基盤施設(駐車場) ・地域生活基盤施設(自転車駐車場)
<p>・JR身延線鉄道高架事業の効果を更に高めるため、高架と交差する市道を新設して鉄道南北の交通渋滞緩和を図る。また、新設市道には歩道が設置されるため、鉄道により分断されていた地域のコミュニティの再生と醸成に資すると共に、市民と観光客の安全安心を確保し、中心市街地の活性化を喚起する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市道大宮町21号線 ・一般市道宮町10号線 ・一般市道大宮町22号線 ・一般市道駅前歩道橋線 ・高次都市施設 ・地域創造支援事業 ・地域生活基盤施設(駐車場) ・地域生活基盤施設(自転車駐車場)
<p>・中心市街地内を頻繁に通過する大型貨物車により歩行者の安全確保が課題となっているため、中心市街地に大型貨物車が流入する原因となっている阿幸地青見線(内環状道路)と国道139号の交差点改良と未整備区間の整備を行い、大型車の動線を内環状線に誘導し、安全性を確保したまちなか歩きの促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)阿幸地青見線
<p>その他</p> <p>・富士宮市では、平成10年頃から市民参加型のワークショップ手法の導入によりまちづくりを進め、中心市街地活性化基本計画は市民、各種団体、商業者、企業等で策定した。最近では、「富士宮やきそば学会」に代表されるまちづくり団体等の活動が注目を集めるなど、市民活動の活発な市街地活性化が進みつつある。</p> <p>・平成17年度に策定した「富士宮駅周辺地区 交通バリアフリー基本構想」に基づき、平成24年迄に安心安全で自由に回遊できる歩行空間を整備実施し、市街地の活性化に繋がる交流空間を目指している。これにより、富士宮市の重要な観光資源である浅間大社や神田川等の魅力を活かし、多くの人が集い交流する賑わい空間を創出していく方針である。</p> <p>・富士宮駅付近JR身延線鉄道高架事業は、(都)野中棒杭線踏切除却・改良事業として平成20年1月に国土交通省から街路事業認可を取得した。街路整備L≒240mに合わせてL≒700mの鉄道高架化を行い、平成24年度には野中踏切を除却する計画となっている。</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>富士宮駅周辺地区(静岡県富士宮市)</p>	<p>面積 276 ha</p>	<p>区域 光町、朝日町、宝町、宮町、元城町、大宮町、中央町、東町、西町、錦町、淀川町、貴船町、中里東町、泉町、阿幸地町、若の宮町、豊町、神田川町、浅間町、田中町、源道寺町、弓沢町の一部</p>
--------------------------	------------------	---

